

ICT ニュース 2021/10 月号

2021/10/12 発行 ICT/感染管理委員

インフルエンザワクチン接種がはじまりました。

日本感染症学会が、冬に備え、インフルエンザワクチンを積極的に接種するよう呼びかけています。昨季はコロナ禍でマスク着用や手洗いなどの対策が徹底され、インフルエンザ患者が激減しました。緊急事態宣言が解除されたいま、海外との往来制限が緩和され、ウイルスが持ち込まれれば、今季は大流行の恐れがあるということです。まだまだ予断はゆるされません。



今シーズンはどうなる？

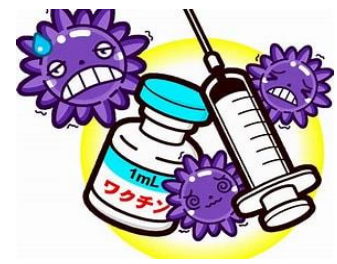
北半球の冬季のインフルエンザ流行の予測をするうえで、南半球の状況は参考になります。オーストラリアからの報告によると、2021 年流行シーズンにおいて、インフルエンザ確定患者数は昨年同様きわめて少数です。2021 年冬季は北半球での流行を認めないのではないかと考えられますが、アジアの亜熱帯地域においては様相が異なります。 Bangladesh では、2020 年後半に A(H3N2)、2021 年初夏より B(ビクトリア) の流行を認めています。また、インドでも、2021 年夏季に A(H3N2) の流行を認めています。

そのような状況下で、海外からウイルスが持ち込まれれば大きな流行を起こす可能性もあります。英国政府は、今年のインフルエンザは早期に流行が始まり、昨年流行がなかったために例年の 1.5 倍の大きさの流行になる可能性があるとして、インフルエンザワクチン接種を呼び掛けています。



2020/2021 のインフルエンザワクチンですが、前年と同様で合計 4 種類のタイプのインフルエンザ抗原が含まれます。

- A 型株(H1N1)
- A 型株(H3N2)
- B 型株(山形系統)
- B 型株(ビクトリア系統)

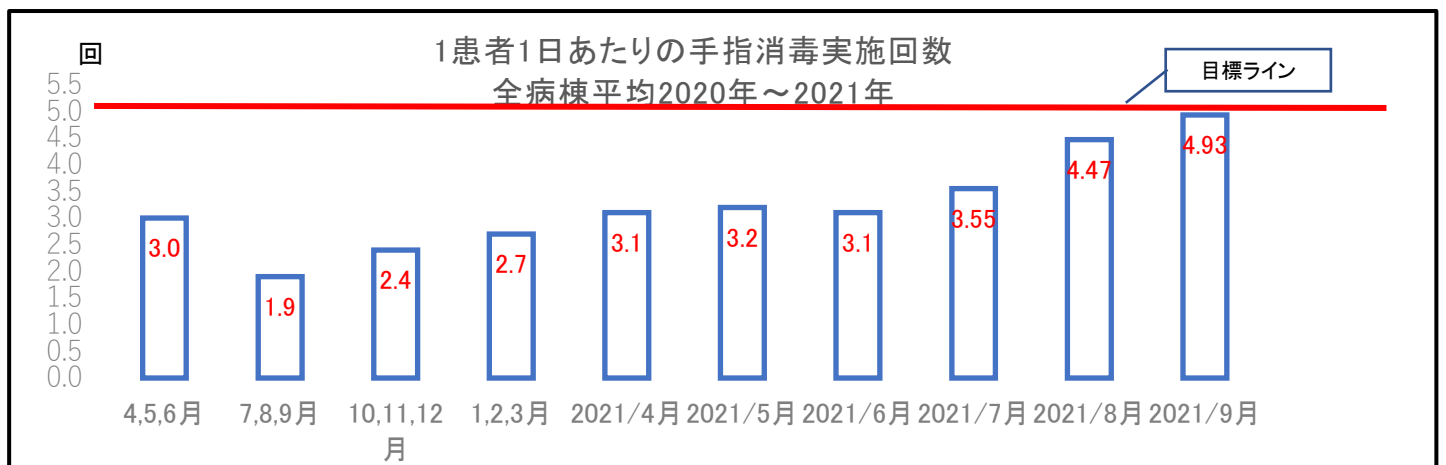
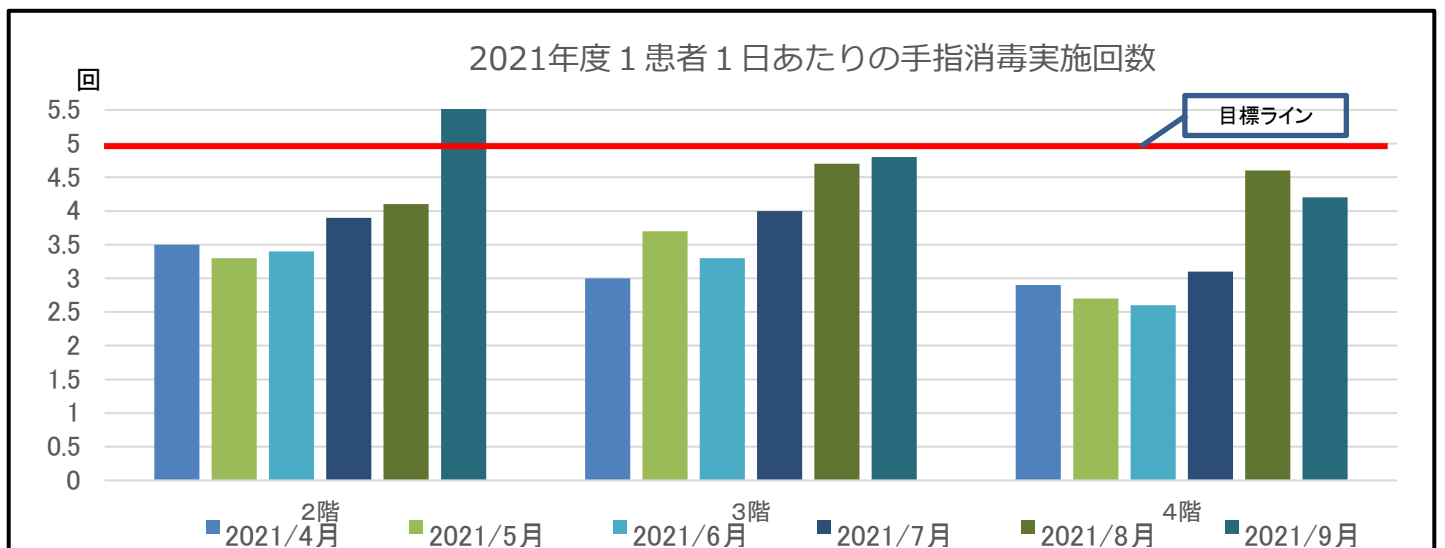
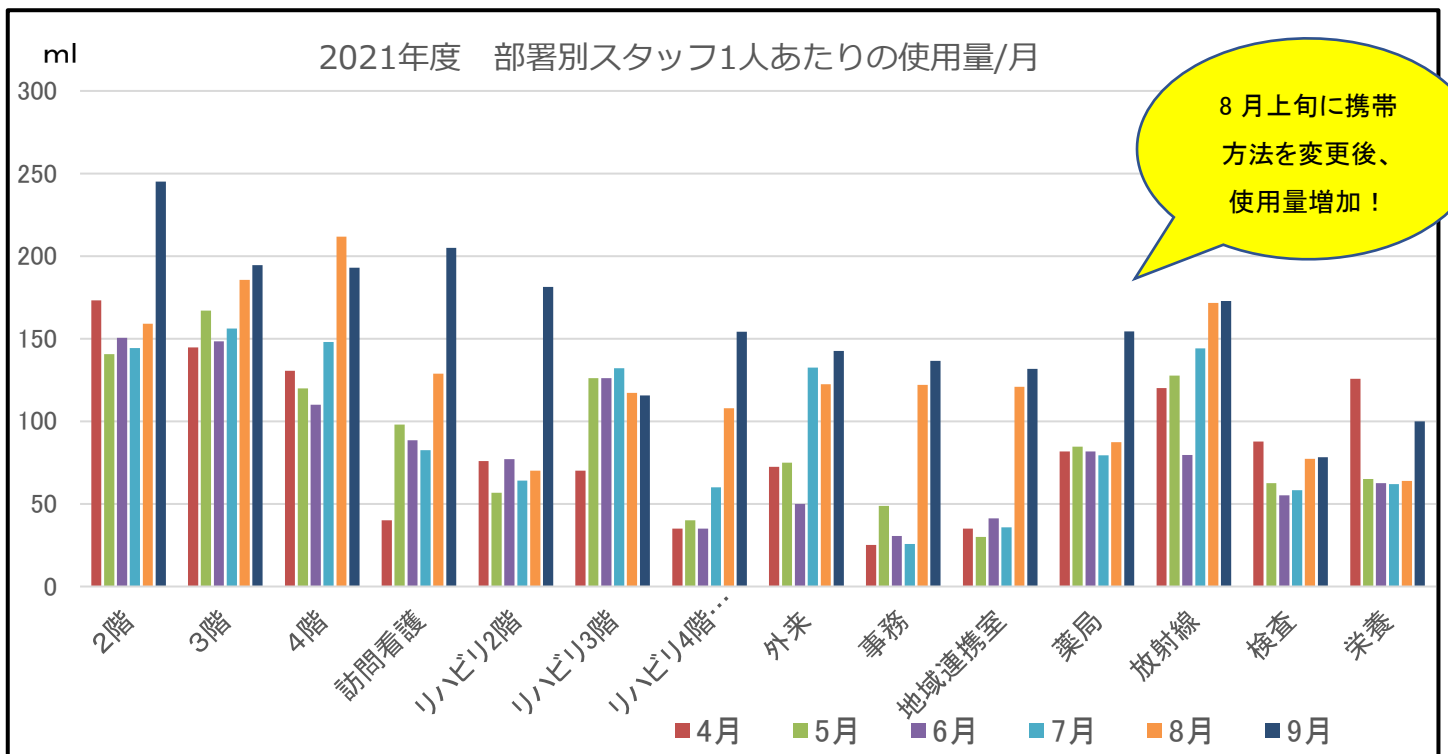


◎インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の違い

	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症
潜伏期間	1～2 日	1～14 日(平均 5.6 日)
無症状感染	10% ウイルス量少ない	数%～60% ウイルス量が多く、感染力が強い
ウイルス排出のピーク	発病後 2～3 日	発病 1 日前
ウイルス排出期間	発症 1 日前～発症後 5 日目	10 日以内
致死率	0.1%以下	3～4%

資料: 日本感染症学会提言「今冬のインフルエンザと COVID-19 に備えて」(2020.8.3)より引用

アルコール手指消毒剤使用量報告



★目標ライン：5回まであと僅か。手指衛生遵守をお願いします！